



いよいよ中間考査！3年生は評定77の正念場！一点にこだわれ！

中間テスト



ゴールデンウィークも終わり、あっという間に中間考査（15～18日）が目の前に迫ってきた。特に3年生は、今回の中間考査の重要さ・意味合いを十分に理解しているはずだ。就職試験でも、入学試験でも、3年1学期までの成績が調査書に記載され、合否に大きく影響してくる。進路実現のために、1点でも多く取れるように最善を尽くし、評定平均を上げておこう。ここで頑張れないようでは、

納得のいく次のステージへ進むことはできない。また、中間考査の勉強はりっぱな受験勉強でもある。受験勉強の一つとして、基礎学力の定着のために、全力で取り組んでほしい。

「中だるみ」になるか、ならないか、中間考査で2年生の真価が問われる。

2年生は、1年生での反省を活かし、2年最初の中間考査からリセットして挑むこと。

高校生活にも十分慣れた2年生は、部活動では中堅としての活躍が期待され、受験ではまだまだ時間的に余裕がある。2年生は一番伸び伸びと学校生活を送れるが、ある意味、この一年こそ、気持ちに余裕を持ちながら、自分の実力（勉強も部活動も）を大きく伸ばす絶好の機会でもある。また、1年生で反省したこと・実行できなかったことをもう一度やり直せる、リセット可能な学年だ。よく言われる「中だるみ」になるかならないかは、すべて本人の自覚次第。周りに流されてやるべきことをやらなければ、1年後の進路目標の実現も困難となる。「文武両道の実践！」とまでは言わないが、勉強不足を部活動のせいにして、部活動を成績の悪さの言い訳にしたり、といったことだけではないように。

2年生は、伸び伸びしながらも、自分を見失わない強い芯を持つことが大切である。

進路を見据えてやるべきことを実行し3年生につながる一年間としてほしいものだ。

1年生はスタートダッシュが大事！まずは中間考査で好成績をとろう。

高校生活がスタートしてからおよそ1カ月。1年生の様子を見ていると、もうすでにほとんど全員が高校生活に慣れたように感じられる。特に、元気な挨拶をしてくれる1年生が増え、確実に南会津高校の良き伝統を先輩から受け継いでいるようでうれしく感じる。

さて、1年生にとっては高校生活最初の定期考査が近づいてきた。成績は3年間の積み上げであり、最初の中間考査で良い成績を残し、その勢いを2・3年につなげることが理想的である。特に、南会津高校では、少しでも高い評定平均を取っておくことが、他校以上に進路決定の際の大きなアドバンテージとなる。早めに学習計画を立て、全科目80点以上！をめざす勢いで勉強してほしい。

進路選択のきっかけづくりとモチベーションを高めるため、オープンキャンパスに行こう！



いよいよ5月を迎え、各学校でオープンキャンパスの開催が多くなる時期となった。オープンキャンパスには、受験勉強のモチベーションを高め、憧れの学校の雰囲気を感じることができるという大きなメリットがある。特に専門学校では、オープンキャンパスをはじめ学校説明会・AO入試説明会等が今月から随時開催され、その時点でAO入試エントリーという学校もある。よって、AO入試志望の専門学校の場合には、強い意志と覚悟をもって参加しなければならないし、当日から面接はすでに始まっていると考えてほしい。

また、大学や短大も、今や7月・8月のみならず、5月・6月の開催（土日等）も多くなっているため、早めに大学ごとのスケジュールを確認し予定を組んでおく必要がある。「オープンキャンパスの参加で進路が決まる、人生が決まる」可能性は高い。自分の大事な人生、面倒がらずぜひとも積極的に足を運んでほしい。

＜オープンキャンパス参加：注意事項＞

- ①首都圏の大学には、事前予約が必要な学校が多いので、公式サイトを確認してから参加すること。
- ②事前準備（交通機関・見学のポイント・質問・メモ・カメラ等）を忘れないようにすること。
- ③1校のみで終わらず、気になる学校は可能な限り参加すること。せめて2～3校は見学したい。とにかく、実際の学校を見て比較検討しておくことが一番大事である。
- ④服装は制服でも私服でもOK。ただし、私服の場合、派手な服装、だらしない恰好、不快感・違和感が出る格好は絶対避けること。誰に見られているかわからない。油断は禁物。
- ⑤オープンキャンパス参加前の届、参加後の報告書、どちらも提出忘れのないように気をつけよう。

「高校卒業後の仕事を考える～夢を追いかけるだけの時期は過ぎた」

もはや「好きな仕事したい」「あこがれの仕事に就きたい」だけでは先が苦しい！！

小中学生の頃は、「プロ野球選手、サッカー選手、歌手・・・になりたい」「花屋さん、ケーキ屋さん、パーマ屋さん・・・になりたい」という夢を描いた人も多かったはずだ。だが、高校生ともなると、いよいよ現実的に将来の仕事を考えるようになる。好きな仕事に就くことは理想ではあるが、実際には「実現可能性」「将来性」「自己満足度」「経済的安定度」「大学進学によるスキルアップ」「社会的評価」等、いくつかの条件を考えていくと、「好きな仕事＝将来の仕事」にはなかなか結びつかないのが現実だ。逆に言えば、実社会で働く人で第一希望の仕事に就けた人の方がはるかに少ないだろう。現実的な職業選択が主になるとは言え、できる限り「やりがいのある、満足度の高い仕事」をめざして挑戦する意識だけは持ち続けたい。

